

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	高橋 利明	経営	H2101092
	②	藪島 美紀子	福祉	H2101031
	③	和田 俊一	経営	H0601057
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	青葉さくら保育園			
事業所連絡先	〒	189-0002		
	所在地	東京都東村山市青葉町1丁目7番地68		
	TEL	042-390-1190		
事業所代表者氏名	園長 平野宏卓			
契約日	2022 年 5 月 10 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022 年 9 月 16 日			
利用者調査結果報告日	2022 年 12 月 18 日			
自己評価の調査票配付日	2022 年 9 月 1 日			
自己評価結果報告日	2022 年 12 月 18 日			
訪問調査日	2022 年 12 月 21 日			
評価合議日	2022 年 12 月 21 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価を行うにあたり、職員自己評価と保護者アンケートをはじめ、事前資料や訪問調査当日の書類確認など多面的な情報収集に努めた。また、職員からも評価項目ごとにチェックが入れられる評価シートを用い、集計報告書に反映させた。 訪問調査では、園内見学、保育場面の見学、経営層・専門職などからのヒヤリングを実施した。 第三者性確保については、当評価機関と事業者との間には特別な関係は存在せず、中立公正な立場で調査を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名 園長 平野 宏卓

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none">1) 園児・保護者から慕われ、信頼される存在であること2) 新たな取り組みへの挑戦・チャレンジ3) 相手を思いやり、お互いに協力する日頃の関係性を大切にする姿勢4) 日々の保育を丁寧に
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>明るく健康的であり、優しさと温かさがベースにあること 日常の当たり前のことを丁寧・確実の実践でき、子どもたちの憧れや手本となれる存在</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもたちの大切な”人生”に関わらせていただいていることを意識する・愛情をしっかりそそぎ、成長を見守っていく・保護者も支えていく大切な仕事をしている というプロ意識を持つこと

調査対象

調査日現在、本園の全96世帯(利用者総数112名)を調査対象とした。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱い、当園に複数名園児を預けている場合は、一番低年齢の園児に対しての回答とした。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を園にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

112

利用者家族総数(世帯)

96

共通評価項目による調査対象者数

96

共通評価項目による調査の有効回答者数

59

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

61.5

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の98.3%が「大変満足」または「満足」と回答し、「不満」が1.7%であり、大変高い満足度が得られている。
項目別では、＜保育サービス＞に関する8設問は全設問において、大変高い満足度であった。特に「子どもの発達への有用性」「利用時間変更の臨機応変さ」では、98.3%の大変高い満足度が得られている。
＜安心・快適性＞についての4設問は全設問において、大変高い満足度であった。特に「園内の清潔な環境」「職員の接遇や態度」では、96.6%の大変高い満足度が得られている。
＜利用者個人の尊重＞についての3設問は全設問において、大変高い満足度であった。特に「子どもの気持ちを尊重した対応」「保育内容の説明」では、93.2%の大変高い満足度が得られている。
＜不満・要望への対応＞では、「不満や要望への対応」は大変高い満足度であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	58	1	0	0
「はい」が98.3%、「どちらともいえない」が1.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「夏祭り、お泊まり保育、普段も体操や手話教室など様々な経験をさせてもらい、感謝しています」、「凄く役立っています。素晴らしい保育園です」、「もう少し遠出のお散歩やホール活動があっても良いかなと思う」という声が聞かれた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	57	1	0	1
「はい」が96.6%、「どちらともいえない」が1.7%、「無回答・非該当」が1.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「戸外遊びや制作などたくさん取り入れていて、よく工夫されていると思う」、「お散歩で虫や木の実、砂遊びなどをやらせてもらっている」、「工作が好きなので、もっと機会が多ければより嬉しいです」という声が聞かれた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	57	1	1	0
「はい」が96.6%、「どちらともいえない」が1.7%、「いいえ」が1.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「家では食べないのに保育園ではおかわりまでしてよく食べている」、「季節を感じる食材を用いたり、バランスの良い食事を用意して下さり、いつもありがたく感じています」、「季節の食材を使ったものが出てはいるが、毎月同様な献立だと感じています」という声が聞かれた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	53	4	2	0
「はい」が89. 8%、「どちらともいえない」が6. 8%、「いいえ」が3. 4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「自然が多い場所なのですごく感じる」、「中庭を秘密基地化を施し、駐車場だった部分に園庭を拡張する天才的な保育園です」、「以前と比べて少なくなりました」という声が聞かれた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	58	0	0	1
「はい」が98. 3%、「無回答・非該当」が1. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「どの職員が対応しても、快く預かっていたので安心していいです」、「電話での対応など、とても親切です」、「今まで断られたことがないのですごいです」という声が聞かれた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	51	8	0	0
「はい」が86. 4%、「どちらともいえない」が13. 6%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「カードを持っていない人は入れないようにしているので、防犯になっていると思います」、「家族で過ごしていて、大きなハチが近づいてきた時にしっかり静かにしゃがんでいたのが、保育園できちんと指導してくれていると感じた」、「発熱やコロナ陽性のお子さんなどの連絡はいただきますが、お迎えに行った時の様子を見て、保育中の感染対策は不十分なのではないか、と不安を感じたことがあります」という声が聞かれた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	56	2	0	1
「はい」が94. 9%、「どちらともいえない」が3. 4%、「無回答・非該当」が1. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「前もって言うので予定も立てやすいです」、「夏祭りや運動会など、土曜日に設定していただけてありがたいです」、「近隣の保育園や幼稚園と調整などは難しいかと思いますが、毎年行事が同じ日になってしまっている行事がいくつもあるので、残念に思うところはあります」という声が聞かれた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	53	5	1	0
「はい」が89. 8%、「どちらともいえない」が8. 5%、「いいえ」が1. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「家での様子、園での様子や、他にもいろいろ話せています。信頼しています」、「毎日、経営層が入口に立ち、保護者とコミュニケーションを取っています。簡単にできることではなく、素晴らしい姿勢に、覚悟と決意を感じます」、「特定の職員しか相談できません」という声が聞かれた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	57	2	0	0
「はい」が96. 6%、「どちらともいえない」が3. 4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「清潔で綺麗な環境整備をしてくれている」、「いつも綺麗です」、「他園(複数園)より清潔で整理されているように感じています」という声が聞かれた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	57	1	1	0
「はい」が96. 6%、「どちらともいえない」が1. 7%、「いいえ」が1. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「どの職員も優しい言葉づかいで丁寧である」、「経営層自ら朝の挨拶、掃除、コミュニケーションを行ってくださっている」、「態度あまり良くない方がいます。挨拶しない方もいますので、残念ながら、保育園の雰囲気は以前と比べたら、悪くなったと感じます」という声が聞かれた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	55	3	1	0
「はい」が93. 2%、「どちらともいえない」が5. 1%、「いいえ」が1. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「いつも丁寧に対処したり連絡していただき、ありがとうございます」、「信頼できないと思ったことは一度もありません」、「熱が出た時、職員方は頑張って見てくれようとしてくれて感謝だが、早めに病院に連れて行きたいなどの場合もあるので、もっと早く職場に電話をしてくれてもよい」という声が聞かれた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	49	3	0	7
「はい」が83. 0%、「どちらともいえない」が5. 1%、「無回答・非該当」が11. 9%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「いろいろケンカなどがある年頃だとは思いますが、職員の距離感が良いと思います」、「状況を丁寧に教えていただけてありがたいです」、「まだその経験がないのでわかりません」という声が聞かれた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	55	4	0	0
「はい」が93. 2%、「どちらともいえない」が6. 8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「子どもが職員のことを大好きなのが何よりの証拠だと思います」、「手がかかる子で問題行動も多く、ご迷惑をおかけしてばかりですが、いつも真剣に子どもと向き合ってくださいありがたく感じています」、「現場の職員たちは一生懸命です」という声が聞かれた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	52	4	1	2
「はい」が88. 1%、「どちらともいえない」が6. 8%、「いいえ」が1. 7%、「無回答・非該当」が3. 4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「守られているのだと思います。その違和感を感じさせないくらい完璧です」、「まだそういう状況がない」という声が聞かれた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	55	3	1	0
「はい」が93. 2%、「どちらともいえない」が5. 1%、「いいえ」が1. 7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「園での様子をわかりやすく詳しく教えてもらえます」、「いつも状況など丁寧に教えていただけてありがたいです」、「問題ないです」という声が聞かれた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	54	2	0	3
「はい」が91. 5%、「どちらともいえない」が3. 4%、「無回答・非該当」が5. 1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「完璧です」、「まだ経験がないのでわかりません」、「学年が上がると引き継ぎがされていなかったり、同じクラスの職員で言うことが異なる場合があり混乱する」という声が聞かれた。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	39	10	3	7
「はい」が66. 1%、「どちらともいえない」が16. 9%、「いいえ」が5. 1%、「無回答・非該当」が11. 9%であった。自由意見では「申し訳ないですが、困ったことはありません。第三者が必要になったことがないです」、「まだ経験がないのでわかりません」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <input type="radio"/> 非該当
	カテゴリ1の講評	
	<p>園の保育理念や目標は、利用者および職員へわかりやすく伝えられている</p> <p>園の保育理念である「児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮し、養護と教育の一体的な機能を果たしながら豊かな人間性を持った心身ともに健やかな子どもを育てます。」を始めとした保育目標等は、園の玄関への掲示、ホームページの掲載、パンフレット配布、入園時での説明など、利用希望者や保護者が園の大切にしている保育について周知する体制を整えている。また、職員には新入職員研修や毎年4月の職員会議において、理念や方針、事業計画等について園長より説明が行われている。</p> <p>園長は自らの役割と責任を明確にし、進むべき方向性を示している</p> <p>園長は職員会議を通じて法人の事業方針や自園の事業計画等の説明を行い、自らの役割と責任を明確に説明すると共に、組織の役割や業務分掌、保育の方針や人材育成など、具体的な説明を行っている。また、園長は事業計画の実現に向け、リーダー会議、職員会議、乳児会議、幼児会議、非常勤会議などを通じて職員の意見を聞きながら、様々な問題点の洗い出しを行い課題の解決に取り組んでいる。職員一人ひとりとの関わりを大切にすため、定期的な職員面談が実施され、進むべき方向性が示されている。</p> <p>重要案件の内容および決定経緯は、職員・保護者に適宜周知されている</p> <p>園で生じた重要な案件については、検討・協議・決定の手順があらかじめ決められ、その内容と決定経緯を関係者に漏れなく周知するように努めている。法人や保育全体に関する案件は本部より各事業所に通知され、これを受けて園長はリーダー会議や職員会議などを通じて職員に周知している。また、園内での意思決定はリーダー会議において方向性を決定している。保護者への重要案件の説明は「えんだより」で通知したり、保護者配信アプリを活用して周知が行われているが内容によっては個別対応が行われ、丁寧な説明が実施されている。</p>	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者や職員、地域の福祉ニーズが様々な運営に生かされている</p> <p>保護者などの意向は、第三者評価による利用者アンケート結果をリーダー会議で検討後、保護者には文書によりその結果を通知している。また、日々活用している配信アプリや個別面談により意向の吸い上げが行われている。職員の意向は、各種会議体や年2回実施する職員面談、年1回実施する人事希望聴取などが活用されている。さらに地域福祉のニーズは、東村山市保育園連絡協議会や社会福祉協議会、東村山市、東京都からの行政文書等を通じて地域福祉の現状や福祉事業の動向について情報収集が行われ運営に生かされている。</p> <p>法人と連動した園の中長期計画の策定が期待される</p> <p>園では環境や社会情勢の変遷・変化が短期間であり対応すべき状況が変化するという理由で、中・長期事業計画は策定しておらず、単年度の事業計画に基づき、全体的な計画、年間指導計画、年間行事予定表などその他各種計画を策定している。しかし、事業運営を行う中で、単年度で完結してしまうものは少なく、PDCAサイクルの視点で捉えても翌年に継続されることが多い。また、人材育成、サービスの質の向上、ICT化などをテーマにした場合、中長期的な視点で捉えることが多いことから、法人と連動した園の中長期計画の策定が期待される。</p> <p>計画の達成度合いを共通の理解として振り返りができる仕組みが期待される</p> <p>園では、年間を4期に分けて保育計画および年間指導計画を立案し、各期ごとに振り返りを行い、次期への課題を抽出しながら業務を進めている。このことから、年に4回開催するカリキュラム会議を通じて達成度合いや見直しが検討され、翌期の指導計画や保育計画が策定されていることから、PDCAサイクルが循環していることがうかがえる。今後は、達成度合いが計数化できたり、可視化できるチェックリストなどを作成し、職員共通の理解と振り返りができる仕組みが期待される。</p>		

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

研修やハンドブックなどにより職員として遵守すべきことが周知されている

新入職員研修において、倫理、コンプライアンス、権利擁護、虐待防止等について研修が実施されているほか、毎年4月と10月の職員会議時の合同研修において、①子どもの保育に携わる者として、国籍・家庭環境・能力などに応じた差別やいじめを許さない ②子どもの人権尊重 ③人格を尊重した保育の実践、虐待の防止など、実践的な研修が実施されている。また、入職時に全職員に配付している保育マニュアルを活用した勉強会や基本的姿勢に関するチェックリストを活用した自己点検を行うなど、マナーの向上に努めている。

保護者における苦情解決制度の理解と虐待防止の徹底を図っている

保護者等の意見を汲み取る仕組みとして、1階、2階の廊下に意見箱を設置するほか、保護者連絡アプリ、保護者との個別面談が実施されている。また、苦情解決制度は入園説明会に加え、園内に掲示し理解を深めている。収集した意見や苦情等は、法人や園、第三者委員と連携を行い、迅速な対応を行っている。さらに虐待防止では、虐待防止研修の実施や各クラス2名以上の複数担任生の導入が行われている。家庭での虐待の疑いのあるケースは記録と職員間の情報共有を徹底し、子ども家庭支援センターと連携し対応に当たっている。

地域ネットワークを活用した保育園としての活動を行っている

園では、ホームページなど通じて、保護者の保育参加や園見学への参加呼びかけ、入園前見学会・説明会を実施している。また、大学を始めとする教育機関と連携し、実習生の受け入れを行っているほか、ボランティアの受け入れも広く受け付けており、地域との関係づくりに積極的に取り組んでいる。園長は市の保育園連絡協議会と東部エリアネットワーク会議に参加し、市の子育て祭りなどに参画して地域との協働体制を築いている。さらに、園の機能や専門性を活かし、地域子育て事業を実施し、地域の一員としての役割を果たす取り組みに力を入れている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>リスクに優先順位を付け、訓練やマニュアル等の整備が進められている</p> <p>感染症に対する優先順位が高く、次に地震や火災の順となっている。リスクに備え、地震・火災等を想定した避難訓練や夜間帯に地震が発生した場合を想定した訓練、不審者訓練など、年間12回の避難訓練等を実施した後、職員会議などで振り返りを行っている。また、インシデントやアクシデントが発生した場合は、ヒヤリハット報告書や事故報告書を作成して原因分析および対策を協議し、再発防止に努めている。さらに、緊急対応マニュアルを始め、各種マニュアルを整備して各リスクへの対応、対策に取り組んでいる。</p> <p>感染症対策が行われ、事業継続計画(BCP)の策定準備が進められている</p> <p>園では、災害に対する事業継続計画(BCP)と感染症に対する事業継続計画(BCP)が未整備となっており、現在整備に向け準備が進められている。また、リスク管理として新型コロナウイルスを含む感染症対策が最優先課題として取り組みが行われている。具体的には、利用者および職員の手洗いや手指消毒、マスク着用、検温による健康管理の実施、アルコールによる園内の消毒の実施、定期的な空気の入れ替えや湿度管理を行うなど、日常の各種防疫対策を行っている。</p> <p>個人情報の適切な管理と情報管理の仕組みが構築されている</p> <p>個人情報保護に関する規程・マニュアル等が整備されており、入職時及びその後の園内研修を通じて職員への教育が行われている。また、各PCやタブレット端末、保育関連のシステム・アプリケーションにはパスワードやIDを設定し、アクセス制限を講じるほか、園内の個人情報は全て鍵付きの書庫で保管し、園外持ち出し禁止を徹底している。さらに保護者などには入園時のオリエンテーションで、「重要事項説明書」を使用し、個人情報保護などに関する説明を行い、同意を得ている。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

職員採用や職員配置が適切に行われ、園の運営が計画的に進められている

現在、職員の採用に関しては、新人職員、中途採用者及びパート職員など、園独自で募集・採用を実施して人材確保に努めている。面接は園長と主任が実施し、園長は面接時に保育の理念の説明を行い、それを受け入れられ、共感できるかを確認して採用・不採用を決めている。人員配置については職員個人の要望・意向を聴取し、それを踏まえつつ担任や係りの分担を決定している。また、園長は職員の自己評価や人事考課の結果内容と園運営状況を見て必要な人材構成を勘案しつつ、職員配置が適材適所となるように取り組んでいる。

キャリアパス研修年間計画表を作成し、職種別の研修を実施している

キャリアパス研修年間計画表を作成し、職種別の研修を実施している。研修は全員参加が定められたものがあり、具体的には、「熱中症予防対策」、「食物アレルギー・アナフィラキシー対応研修」、「子どもの食物アレルギー」、「深刻事故予防と保護者リスク・コミュニケーション」は全員受講が求められている。また、救命救急講習は年間を通して定期的で開催しており、全職員の参加が義務付けられている。人事評価は園長による総合的判断が行われており、個人評価が処遇と連動しているが、職員へのフィードバックの仕方については検討が必要となる。

組織としての学びやチーム力の高さと職員のモチベーションの向上が図られている

園では、クラス担任とは別に園内の運営に必要な係を一人ひとりが受け持つ担当制が導入されている。大きな行事は担当制により開催し、職員間の協働・連携を促し職員の意欲向上を図っている。大きな行事を実施した後は、職員全員で食事会を催し人的交流を深めるようにしている。また、年間保育計画に対する振り返り等を行うカリキュラム会議を年間4回開催しており、職員の活発な意見交換が行われている。さらに今年度は、職員同士が意見を出し合い取り組んできた「園庭リニューアル」が完成し、職員のモチベーションの向上と達成感につながっている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題として、
「新たな取り組みへの挑戦」が掲げられている。

理由として、
前年度からの繰越しテーマとなる。
前々年度(令和2年4月)に、「園庭リニューアル計画」を打ちだし、令和3年度内に着手・完成出来るよう、検討チームを立ち上げ、職員の意見を反映できるようにした。園庭リニューアル会議を設けて現場職員が中心となって話し合い、具体的な遊具・デザイン・配置などについて検討を重ね、職員の考えを盛り込んだ園庭(案)を考えました。また、単に遊具をリニューアルするだけでなく、新たな園庭にする「目的・意図・保育的効果・価値」などについて職員自らが「語れるよう」職員向けプレゼンテーションを実施することで、職員間の園庭に対する取り組みについて情報共有を図っていった。

具体的な取り組みとして、
昨年度の1年間をかけ、園庭リニューアル計画を進めてきた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

上記の取り組みの結果、令和4年3月末日までに園庭を完成させることができています。開園10年目を迎え新たな園のシンボルとして、子ども達や保護者からの評判も良く、職員が協力をして成し遂げた達成感を味わうことができ、次へのモチベーション向上につながっていることがうかがえる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題として、「語れる保育士の育成」が掲げられている。保育園のことを職員一人ひとりが自らの言葉で「語れる」ことが重要と考えている。

理由として、前年度からの繰越しテーマとなる。前々年度(令和2年4月)に、「園庭リニューアル計画」を打ちだし、令和3年度内に着手・完成出来るよう、検討チームを立ち上げ、職員の意見を反映できるようにした。園庭リニューアル会議を設けて現場職員が中心となって話し合い、具体的な遊具・デザイン・配置などについて検討を重ね、職員の考えを盛り込んだ園庭(案)を考えた。また、単に遊具をリニューアルするだけでなく、新たな園庭にする「目的・意図・保育的効果・価値」などについて職員自らが「語れるよう」職員向けプレゼンテーションを実施することで、職員間の園庭に対する取り組みについて情報共有を図っていった。

具体的な取り組みとして、リニューアルのコンセプト・意義・目的・保育的効果等について、説明会を実施し周知・理解に努めた。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行ってなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

上記の取り組みの結果、令和4年3月末日までに園庭を完成させることができています。この庭園は、シンボルツリーを中心に小屋が作られ、そこに向かうまでのステップがアスレチックのようになっている。子ども達同士が協力し合わなければ、小屋(ゴール)に到達しにくい仕組みとなっており、子ども達同士で話し合い取り組む姿や諦めない心が育っており、園庭のコンセプトが生かされた結果となっている。また、これらの活動を職員がしっかりと自分の言葉で伝えられる「語れる保育士の育成」につながっていることがうかがえる。今後も引き続き、「語れる」保育士の育成のために、定期的に園庭リニューアルの意義・目的等の説明とリニューアル後の運用を説明できる活動が継続されることを期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ1の講評			
<p>コロナ感染症対策をした上で、希望者には保育園内を見学する機会を設けている</p> <p>見学希望者からの電話による申し込みにも都度対応していたが、新型コロナウイルス感染症の流行以降は感染症への配慮をし、1回5組という人数制限を設けての園内の見学・案内・説明の機会がもてるよう柔軟に対応している。出来る限り多くの園見学者に対応したいという思いから、予め受け入れ可能日を園前の掲示板にて告知したうえで、電話で予約を受け付ける仕組みをとっている。感染症対策を適切に行っていることもありコロナ禍ではあるが、入園申し込み締め切り前はほぼ毎日のように見学者が訪れている状況とのことである。</p> <p>見学者には保育の様子を映像で紹介したり入園にあたっての具体的な説明を行っている</p> <p>見学時には園内の各保育室や保育の様子を見ることが出来るようにしており、園の子どもや保育士の雰囲気を感じられるように配慮されている。また、大きなホールではプロジェクターを用いて日々の保育活動や行事の様子も見ることが出来るため、より具体的な入園後の子どもの生活がイメージできるようにしている。その上で入園時や実際の園生活において必要な持ち物などについて職員から実際に準備するものなどを提示して説明をするなど、特に初めて保育園を利用する保護者にとっては安心した保育園選びが出来るように支援している。</p>			

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>保育に必要な情報は保護者記入の資料をもとに面談を行った上で全職員に共有している</p> <p>行政からの入園内定決定を受け、入園に必要な個別事情や要望を収集するための独自の書類を保護者に郵送している。保護者記入後に保育園に返送してもらうことで、予め栄養士や看護師をはじめとする各専門職は内容の確認を行い、適切な聞き取りや対応のもと保育が開始することができる仕組みとなっている。入園時の情報共有を丁寧にかつ効率よくすすめることで、保護者も安心して利用開始することができるように配慮している。個別の面談時には園の基本的ルールや重要事項の説明がなされ、個人情報の取り扱いも含めた同意書への捺印も得ている。</p> <p>サービスの開始・終了時にも一人ひとりを大切に作る姿勢が形となっている</p> <p>入園時には子どもや保護者の就労状況など個別の事情を踏まえ対応していくことを大切にして、支援している。保育時間を1日1時間ずつ延ばしていくなど子どもの負担、ストレス軽減への配慮がなされている。こうした保育は「親しみ保育」という独自のネーミングで呼ばれており、緊張や不安を感じやすいサービス開始期において、子どもだけでなく保護者にも園のあたたかな雰囲気や利用者への配慮を感じてもらえることを大切にして対応していることがわかる。この親しみ保育中は乳児は担当制を導入し、園児がより安心して早く慣れるような工夫もしている。</p> <p>保育利用終了後もつながりを継続できる独自の取り組みを大切にしている</p> <p>卒園や転園時にはお別れ会を行ったり、入学する小学校を見学に行くなど不安軽減のための取り組みをしている。一人ひとりの成長過程や個別事情を伝える保育要録を提出するだけでなく、小学校と直接引き継ぎを行う機会を設けるなど、子どもも保護者も安心して小学校生活に移行していけるよう配慮している。また、卒園児が通う近隣小学校の授業参観に園職員が出向いたり、コロナ感染症の流行具合を鑑みながら卒園児を保育園に招いて同窓会のような行事を開催するなど、サービス終了後も継続してつながりをもてるよう工夫している。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

12/12

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-3の講評

全体的な計画をもとに作成される各計画立案の手順や作成者が明確に決められている

保育所保育指針に則り、全体的な計画を踏まえた上で年齢ごとの年間計画、月案、週案、日誌を作成し保育に生かしている。年間計画は前年度の担任が翌年の担任に丁寧に引き継ぎを行った上で、全体を統括する主任や看護師、栄養士などの意見も交えながら作成され、年度当初の保護者会や毎月のお便りなどで保護者にも共有している。年間を4期に分け、振り返りや次期に向けての計画の見直しを行っている。各月では幼児会議、乳児会議を行い、一人ひとりの姿を共有しながら丁寧な関わりが必要な年齢や子どもに対しては個別の計画や記録の作成も行っている。

園内外で様々な種類の会議を行い、職員全体で多角的に子どもの情報を共有している

毎日の朝礼で日ごとの子ども、家庭の情報共有を行っている。園全体では、毎月の職員会議や幼児会議、乳児会議の他に不定期でクラス会議や非常勤職員の会議も行われている。大きな行事の開催に向けては保育リーダー会議や年を4期に分けた各時期には個別カリキュラム会議も行い、子ども一人ひとりを丁寧に捉え、分析し次期の計画立案に役立てている。園外においては、幼保小の連携会議や栄養士・看護師は地域の専門職との情報交換会議などへの参加もしている。園全体の職員の協力と工夫があり、多くの会議が開催され、保育に生かされている。

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報保護の基準に従い、適切に取り扱うことを周知し、保護者の同意も得ている</p> <p>個人情報については利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規定・体制の整備を行った上で、取り扱いには細心の注意を払っている。PCにはアクセス権の制限をかけた。書類は鍵のかかる書庫での保管を行っている。収集した情報の利用や保管、廃棄についての規定・ルールを定め実習生やボランティアを含む全職員が理解し遵守するための取り組みを行っている。また、全職員に対しては秘密保持誓約書の提出も義務付けている。保護者に対しては入園の際に重要事項として説明を行い同意書提出を求めている。</p> <p>子どもの羞恥心に配慮した環境設定やプライバシーを保護する保育を心がけている</p> <p>身体測定や着替えの時には全裸にならないように声をかけたり、子どもたちが上下別々に着替えが出来るよう援助している。死角になるような場所でオムツ交換を行う工夫や年齢に応じたトイレの仕切りも作られている。また、夏季には屋上でプール活動を行うが、その際も近隣住居から見られないよう可動式の塀も取り付けている。</p> <p>保育の中の様々な場面で一人ひとりの思いが尊重され、子どもの権利が守られている</p> <p>子どもを保育者の計画に合わせて動かそうとしたり、何かをさせようとするのではなく子どもの気持ちに寄り添う保育を心がけている。月齢による発達の違いは乳児は環境を工夫し、安心できる空間の中で子どもの意思や生活での権利が守られるよう配慮している。言葉で自分の思いを話せるようになる幼児では子どもたちのしたいことや好きなことが日々の保育や行事に反映されるように支援している。子ども同士のケンカの際にも、保育士はお互いの思いを十分聞き取るなど丁寧に対応し、個人差の大きい午睡時間や延長保育時きめ細やかに対応している。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
業務の標準化のために職員の共通認識となる保育マニュアルを整備している 園内業務や保護者対応などについて、誰でも読めば分かるようにまとめられた保育マニュアルを作成している。日々の業務においてわからないことがある際には、まず保育マニュアルで基本事項を確かめた上で、園の中核となっている事務所に確認することが職員の共通認識となっている。職員は定期的に保育マニュアルを読み合わせする機会を作り定着できるよう努めており、園のサービスの標準的な水準を保つことにつながっている。職員間での読み合わせを機に内容の見直しをすることで、ブラッシュアップを繰り返す仕組みを構築している。			
保育の工夫について、諸会議の中で意見交換をして取り組んでいる 保育内容や、サービスの提供に関すること、それらの方法については、年度末の職員会議において検討し、見直しを実施している。年間指導計画については、担任が検討・提案し職員会議で確認・決定する仕組みとしている。行事については、行事終了後に反省と次年度への課題を職員会議の中で検討し改善に取り組んでいる。予防のための改善推進事項、保育の工夫について、職員会議、部門会議の中で意見交換をして取り組んでいる。保育課程、保育標準マニュアルに基づいて、全職員が共通認識のもとに保育が実践できるようにしている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	34 / 35
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達に応じた援助や指導に努めている</p> <p>入園時の面談において、子どもや保護者の状況を聞き取り記録しており、具体的な内容としては家庭での保育の状況や食事、睡眠、健康状態などを詳しく把握することに努めている。また登降園時の保護者との会話や個人面談などを通じて、家庭での様子を聞いたり、日々の保育の中で子どもの発達状況を把握し記録している。それらはクラス会議などを通じて職員間で共有し、園全体で子どもの様子を認識できるようにし、児童票に発達発育の状況として記録している。さらに、それらをもとに、年間指導計画を策定する際の重要な参考資料としている。</p> <p>子ども同士が年齢や文化・習慣などの違いを認め合い互いを尊重するように配慮している</p> <p>宗教や文化の違いや肌の色、言葉の違いなどについても、分け隔てなく接することができるような機会を設け、異年齢交流の機会を充実することにも取り組んでいる。特別な配慮を必要とする子どもについては、健常児と同じように自然に接することを基本にしている。また、市の巡回相談を受けたり、保護者にはエピソードの中でさりげなく伝えたり、家庭での様子を聞き取っている。さらに、統合保育の良さを会議で共有し、ハンディを持った子どもを含めた保育において、互いに認め、協力し、成長していける保育を大切にしている。</p> <p>子ども同士のトラブルには気持ちを尊重しながら対応している</p> <p>発達の過程で生じる子どものトラブルでは、仲裁に入った保育士が相互の気持ちに沿った対応を心がけている。行為そのものを判断するのではなく、子どもの発達状況・年齢・生活を把握しながら対応することを大切にしている。自分の気持ちを行動で表現するのではなく、言葉で思いを相手に伝えることができるよう取り組んでいる。子ども同士のトラブルに対しては事故・ケガ報告書を検証し、結果をもとに職員会議などにおいて対応の検討を行っている。常に子どもの様子が把握できるように保育士が配置を考慮している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登降園時には子どもの様子を保護者と共有できるように努めている
 登園時は家庭での子どもの様子を保護者に確認するとともに、視診や連絡帳で記載事項(健康や食事、睡眠、排せつなどの状況)を細かくやり取りして把握することになっている。また、クラス担任以外の早番担当の職員が子どもを受け入れる際も同様の対応としているが、特記事項などがあった場合は記録して確実に申し送りができるようにしている。降園時には乳児クラスは連絡帳、幼児クラスは掲示によってその日の活動を保護者に伝えている。体調やケガ、トラブルなどがあった場合にはクラスや、必要に応じて園長や主任に伝えることになっている。

一人ひとりの発達に合わせた基本的な生活習慣が身につくように援助している
 子ども一人ひとりの発達に合わせて、基本的な生活習慣が身につくように援助しており、0歳児では午睡などの休息のタイミングをはじめ、ミルクや離乳食の量と時間などを保護者と相談しながら取り組んでいる。また、椅子やテーブルは年齢にあわせてものを取り入れており、スプーンや箸の使い方・トイレトレーニングは個別に対応して子ども個々のペースの援助に心がけている。食事場面では、子どもの状況に合わせた食べやすい量が用意されており、無理に食べさせることなくタイミングのよい声かけで一人ひとりに合った援助が確認できている。

子どもの状況に応じて昼寝時間を設定している
 年齢の低い子どもは午前中も睡眠時間をとるなど、子ども一人ひとりの発育状況に沿って睡眠が取れるようにしている。0歳児ではベビーベットを用意して寝付くまで保育士が傍に付き添い安心して眠れるように努めている。5歳児クラスは、概ね年明けの1～2月より午睡時間を短縮し、3月には午睡時間を無くして就学に備えるようにしている。また、眠りやすいように室内を暗くして適切な環境づくりに心がけている。さらに、眠れない子どもには保育士がついては、静かに過ごす配慮も心がけている。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子ども一人ひとりの発達に応じた援助や指導に努めている
 園目標を年間指導計画に明示し、さらに月案や週案にはそれぞれの期間に応じた保育の実践を、分かりやすく落とし込んでいる。それらをもとに日々の保育に様々な遊びを取り入れており、子どもの年齢や発達に応じて、季節やその時に子どもが好きなことも把握しながら、適切な玩具や絵本が提供できるように環境を設定している。3歳児にはいろいろなことに興味を持てるように、また4、5歳児の姿を見てやってみようという気持ちが生えるような援助になるように努めている。年齢に応じて「決まりやルールのある遊び」を取り入れることにしている。

子どもたちが主体的に活動できるように時間と空間の配慮をしている
 子どもの自主性を尊重できるように、各クラスの玩具や教材は年齢を考慮して選択し、子どもが興味関心を持って遊べる環境づくりに取り組んでいる。また、次の活動を先に伝えるなど、子ども自身が先の見通しを持って行動ができるような言葉がけにも配慮している。子どもの自主性を重んじる自由遊びと集団活動である一斉活動を1日のプログラムの中に取り入れることで、社会性や道徳心がバランス良く育つような活動になるよう注力しており、現在子どもの活動が発展するようなカリキュラムや取り組みについて話し合いを重ねているとのことである。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

行事により生活体験が豊かになることを目指している

季節の行事をはじめ、運動会、お泊り保育、地域交流、誕生会など年間行事計画を作成しており、行事ごとにねらいを設定して行事担当者とクラス担任が連携して実施につなげている。行事計画は保育目標をもとに年齢別に作成しており、準備の段階から子どもの参加を促したり、職員の役割を分担することで職員全員が行事に携わるようにしている。さらに、子どもの発達や年齢に合わせたきめ細かな計画を立て、一人ひとりに合わせた配慮に心がけている。保護者が参加できる行事では、親子との楽しいふれあいの時間を過ごせるよう取り組んでいる。

子どもが興味を持ち、協力して進められる行事を実施している

コロナ禍の影響によって、中止や縮小開催を余儀なくされている行事も多いが、例年であれば行事は日頃の園生活の発表の場としており、行事により生活体験が豊かになることを目指して開催している。特に、運動会やお楽しみ会などは、子どもが積極的に関わりながら行事の準備ができるようにしている。準備に取りかかる前に、子どもたちで話し合う時間を設けるなど「やりたい」という思いが生まれるような行事への導入に努めている。さらに、子どもが自分自身から前向きに行事に取り組めるような環境づくりにも配慮している。

保護者に行事計画を周知して参加促進につなげている

毎月4月には年間行事を報告し、行事の都度早めにお知らせして保護者が参加しやすくなるように配慮している。行事の内容は、親子の時間・他の家族との交流を楽しんでもらえるような時間を採り入れることに心がけている。毎月発行される園だより・クラス便りでは「行事の活動内容・ねらい」を伝えて催行時の協力を呼びかけている。開催後には各種のアンケートを取ることで行事の反省・改善点を保護者と職員が一緒に考えることに取り組んでいる。また、保護者が参加しない行事については、子どもの楽しんでいる様子等を写真などで伝えることにしている。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

長い時間を保育園で過ごす子どもたちが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

開園時間は7時から19時となっており、7時から8時30分は11時間開所時間、18時～19時までを延長保育時間としている。保育時間が長い子どもが安心して無理なく過ごせるように、夕刻の時間では人数が少なくなるまでは出来る限り各クラスで過ごせるように配慮しており、担任もクラスに入れるようにするなど、子どもの人数や状況に応じて対応している。人数が少なくなってからの合同保育時間では、補食を提供し遊具の入れ替えや遅番用の遊具を提供するなどによって、お迎えまでの時間を落ち着いてゆっくり過ごせるよう取り組んでいる。

引き継ぎを確実にしながら園での様子を保護者に伝えている

保育時間が長くなる場合にも子どもが元気に過ごせるように、日中においても一人ひとりの生活リズムに合わせて食事や睡眠時間差を設けるなどの配慮をしている。子どもの様子は毎日の子どもの午睡の時間を利用してクラスごとで話し合い、個別支援に取り組んでいる。特記事項などについては日誌に記入するとともに、職員の交代・遅番に引き継ぎ時には必ず口頭で申し送りを行っている。保護者への大切な伝達事項は連絡帳や必要に応じて手紙などで直接手渡すようにしている。また、降園時には子どもの一日の様子や活動内容を伝えるように努めている。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当

評価項目6の講評

食事提供には細かい配慮がなされている

入園時には、健康状況・アレルギーの有無・授乳方法などの詳しい情報収集に努めている。食事時間、調理形態、摂取方法などを、クラス担任が詳しく確認することに取り組んでいる。離乳食は一人ひとりの発達状況に応じて調整されており、体調のすぐれない子には柔らかく調理された食事や消化の良い食事が提供されている。乳児には落ち着いて摂取できる環境や0歳児クラスは食事介助専用のエプロンを着用し衛生面にも配慮している。また、栄養士はクラスを巡回して子どもに声かけしコミュニケーションを図り、味付けや切り方等への工夫につなげている。

様々な食物アレルギーに対していつでも除去食などが対応できるようにしている

食物アレルギー児への対応としては、基本的に除去食によって対応できるようにしている。除去食対象の子どもについては全職員で情報を共有しており、お皿やトレーの色を変えるなど注意喚起を促す環境を整え、調理室とクラス担当職員との配膳時に誤食を起こさないようにしている。調理室では、調理の際にアレルギーや離乳食などで誤食を起こさないように互いにチェックをしながら進めることにしている。また、関係職員や保護者が出席するアレルギー会議を毎月開催しており、献立表をはじめ注意事項などを相互に確認し合うことにしている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

園の嘱託医の協力で子どもの健康管理がきめ細かく行われている

子どもの健康管理の一環として、定期的な身体測定と嘱託医による健康診断が行われており、結果は健康記録票に記載するとともに、保護者にも報告しながら成長の経過と健康状態の管理に取り組んでいる。健康診断の際には保護者から気になることを事前に聞き、保護者に代わって嘱託医の説明を受けて保護者に伝えることにしている。子どもに急変が生じた際には、保護者への連絡や嘱託医に指示を仰ぎ、病院に行くなどの必要な措置をとることにしている。幼児クラスでは、保健指導や咳エチケット、体の仕組みなどをテーマとした保健指導を実施している。

保育の中で病気や体を守る知識を伝えている

健康維持・感染症予防のために日々行われている手洗い・うがい・歯みがきについては、絵本の読み聞かせや保育士が実際に手本をみせるなどを保育の中で実践している。子ども同士のけんかやかみつきが起きた際には、その機会を通じてケガの痛みや病気について教えることにしている。また、看護師を配置して、病気の疑いなどが見受けられた際には担任と看護師が連携を図る体制を整備している。保護者に対しても日常的に子どもの健康相談ができる仕組みが整っている。

乳幼児突然死症候群(SIDS)の防止や感染症予防が保護者に伝えられている

乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防として0歳児は5分毎、1歳児以上は10分毎にチェックし、保育士の目の届く範囲で寝かせるなど保育士がそばについて常に見守っている。感染症が発症したときは掲示と口頭で保護者に情報提供をし、感染症を最小限に防ぐ努力をしている。園と嘱託医との連携が図られており、園だよりには嘱託医による感染症の予防や地域の感染症発生状況・予防接種に関する情報も掲載して、家庭で健康を守る知識の提供にも取り組んでいる。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目8の講評

契約時間外での預かり保育や育児相談は柔軟に対応している

入園時面談で保護者の状況や就労について聞き取り、それぞれの家庭の状況に合わせた支援ができるように配慮している。また、急な残業による延長保育への対応の場合は、園で可能な範囲で対応することになっている。また、個人面談はいつでも受け付けることにしており、保護者からの相談にもすぐに対応し、子どもの様子を伝えと共に家庭の様子や悩みなども聞き取り、園と家庭と一緒に子育てができる環境になることを目指している。保護者の不安感を少なくするよう園長を含め多職種が連携して対応することになっている。

保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みに力を入れている

園では定期的にクラス懇談会を開催しており、保護者に情報提供と懇親の場を提供している。懇談会では保護者同士が自由に歓談できる時間を設け、親同士が近親感を持ち気軽に交流できるようにしている。また、日々の登降園時には保護者の気持ちを遠慮なく話せるような雰囲気づくりに配慮した声かけを心がけている。クラス懇談会、保育参加と個人面談などの各種の機会を通じて、保護者の意見を聴くことに努めている。

保護者への働きかけをさらに充実させることを目指している

子育てに関するパンフレットは園の玄関に設置しており、いつでも自由に持ち帰ることができるほか、保護者に配付して情報提供に努めている。保育に関する保護者の意向は、担任や事務所でいつでも受け入れる体制を整えている。子どもの発達や育児について保護者との共通認識を得るために、全クラスにおいて保育参観を実施しており、多くの保護者の参加が見られている。実施期間を設定し保護者の希望日を申し込んでもらい、子どもやクラスの様子を中心に見てもらうようにしている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目9の講評

地域の社会資源の活用や情報提供に取り組んでいる

戸外活動の一環として近隣の公園やグラウンドへの散歩などをする際は、地域の人々に挨拶する機会を設けている。また、園見学に来た利用者に対しては子育ての相談を行っていることや、相談窓口の案内を知らせている。園の入り口エントランスには地域で行われている催しのパンフレットをはじめ、病後時保育や一時保育などの行政や地域での子育て支援に関する資料が用意され、保護者をはじめ訪問者はいつでも自由に手にすることができるようにしている。

地元の人との交流に努めることで子どもへの防犯につなげることを目指している

今年度はコロナ禍のために開催が難しいが、例年では、夏祭りに地域の方を招待し交流する機会を持っている。また、地域との交流に努め地域の方と顔見知りになることが子どもへの防犯につながるとして積極的に交流を図っている。入園を希望する保護者の園見学の際には、園長を中心に保育相談や栄養相談、健康相談を受けながら気軽に訪問してもらえるよう努めている。コロナ禍の状況にもよるが、来年度は近隣の情勢を見て、地域との連携をさらに充実させることを目指している。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-2	着実な計画の実行に取り組んでいる
タイトル①	PDCAサイクルが循環し、組織としての共通理解度の向上が図られている	
内容①	園では、保育計画や年間指導計画の運営が計画通りに進んでいるかを定期的に確認するカリキュラム会議を年4回開催している。カリキュラム会議では、計画がスケジュール通りに遂行されているか、計画の修正の必要性があるかなど、具体的項目について確認が行われ、修正が必要な場合には適宜改善が行われている。その結果、次期への課題を抽出しながら業務を進める体制が構築され、改善におけるPDCAサイクルが循環している。また、計画がより実行可能なものとなっており、組織としての共通理解度の向上が図られている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	全職員が一丸となり一人ひとりの子どもの思いを尊重した対応、保育を行っている	
内容②	お泊り会や運動会などは毎年行う行事ではあるが、その年々の子どもたちの個性に合わせた内容を検討し、子どもたちと話し合いをする中で子どもの希望に寄り添った内容で行っている。その結果、子どもたちは意欲的に取り組むことができるため、園と保護者とが一緒になり子どもの成長を喜び合える機会となっている。個人差や月齢差の大きい1歳児は2つのグループにわけ保育を行っている。それにより、生活の様々な場面で保育士は個々に合わせてゆったりと対応することができ、一人ひとりの子の権利や意志が尊重される保育や支援を行うことができている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	年齢に応じて外遊びが楽しめるようにしている	
内容③	園では天気の良い日はできる限り園庭や散歩に出かける外遊びに取り組んでいる。特に園庭は職員の創意工夫によって、新たに「ツリーハウス」や「スライダー」を設置して、さらに楽しめる環境になっていることがうかがえる。乳児クラスはバギーに乗って外気浴が行われ、歩行が安定している子どもには近隣の豊かな自然が感じられるような「散歩コース」を選定して興味を伸ばしている。幼児クラスでは出発前に周辺の環境などと合わせて説明し、関心を深めてもらうようにしている。クラスだよりによって園庭や戸外活動に関する情報提供に努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの育ちをサポートすることを共通目標とし、職種を超えた連携が図られている
	内容	園庭に大きな遊具を設置するにあたっては全職員で長期間にわたって話し合いを重ね、子どもの原風景となるようなまた、園の目玉となる園庭を作り上げた。そこには子どもの心身を育てるいくつかの仕掛けや関わり方のルールがあり、全職員の共通認識のもと子どもに提供されている。看護師は全園児の健康状態や発育状態をすべて記録にとり把握している。一方では、栄養士は魚の解体ショーや栄養について子どもに読み聞かせをするなど多角的に子どもの食育を行っており、子どもの育ちをサポートするために職員が協力し合っている。
2	タイトル	様々な経験を通して子どもが食に興味を持てるように取り組んでいる
	内容	「給食だより」や「毎月の献立」は配付に加え、降園時には保護者が給食を確認できるようにサンプルを玄関エントランスに設置している。また、食育の一環として夏野菜(トマト、キュウリ、オクラ、トウモロコシ)や冬野菜(レンコンやタマネギなど)を保育士と一緒に育てたり、フルーツヨーグルトやホットケーキ、おにぎりを作るなど、調理を体験したりする機会を設けている。さらに、魚の解体や切る前の魚を見る機会や、栄養士の仕組みを説明する機会も設けるなど、子どもが色々な食体験を通して食に興味を持つことができるように取り組んでいる。
3	タイトル	園庭が新たな園のシンボルとなり子ども達や職員の意欲の向上へとつながっている
	内容	前年に引き続き園庭リニューアルプロジェクトが計画的に進められ、令和4年3月に園庭が完成し、今年度はこの園庭を使っの1年目となり、実際に子ども達に活用された結果を確認する評価の年であると言える。この庭園にある遊具は、子ども達同士が協力し合わなければ、ゴールに到達しにくい仕組みとなっており、子ども達同士で話し合い取り組む姿や諦めない心が育っており、園庭のコンセプトが生かされた結果となっている。また、職員にとっても計画したものが形となり、子ども達の笑顔がその結果として現れており、今後につながる結果と言える。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	入園希望見学者などに対するアンケートなどを行うことで、地域のニーズを把握することも期待したい
	内容	見学希望者に対しては柔軟な受け入れを心がけ、きめ細やかで工夫をした案内を行っている。ただし、見学者などに対して「どのような経緯でこの園を知ったのか」、「園に期待すること」などのリサーチは行っていないとのことである。今後は園見学者や地域の子育て家庭との交流時にアンケートをとるなど、地域のニーズを知り分析することで子育て家庭との交流増や園児獲得にもつなげることも期待したい。
2	タイトル	さらに質の高い保育が提供できる体制作りを目指している
	内容	園長は、職員の個人的能力の向上やチームワークの促進に取り組み、園ではそれなりの成果を出してきている。新たに設置した「ツリーハウス」や「スライダー」なども一例となっていることがうかがえる。また、すべての職員が、「笑顔を絶やさない」「あたり前のことをあたり前にやる」ことを、さらに浸透させる必要性を認識している。園では、職員会議などを通じて理念・方針の理解を深めるなど、基本に立ち返った体制づくりを目指している。園長は「できることからやって保育の質の向上を図る」を目指して、指導助言に取り組んでいる。
3	タイトル	法人と連動した園の中長期的視点でのマネジメントが期待される
	内容	保育園を取り巻く環境は、大きな変革期を迎えており今後は少子化に伴う待機児童の減少から保育業界全体がシュリンクし、一層の質の向上と差別化が求められている。このような状況下の中では、人材の確保、育成、保育サービスの質の向上、ICT化など、中長期を見通す計画の立案が重要と言える。しかし、現在園では中・長期計画の策定が行われておらず、単年度の計画のみでの運用が行われている。その結果、翌年に繰り越す課題や継続的課題も散見されることから、SWOT分析等を活用した中長期的視点でのマネジメントが期待される。